

まちづくりの方針と立地の適正化に関する基本的な方針

資料 3

立地適正化計画により解決すべき課題

課題 1 熊野町の良さを生かした定住・移住環境の向上（人口減少や地域経済縮小の克服）

- ・若者や子育て世代の移住・定住の促進のためには、子育て支援や医療サービス等の充実など、都市の魅力や潜在力が発揮できる取組を強化し、豊かな自然環境の中でのびのびと子育てできる良好な住環境をさらに魅力的にしていけることが必要。
- ・高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できる環境を構築するため、住民が抱える生活サービス機能の持続性やコミュニティの持続性などの不安など、将来の懸念事項を解消していくことが必要。

課題 2 自家用車を利用しなくても、多くの方が暮らしやすいまちの実現

- ・町内や周辺市町を結ぶ公共交通網の充実（利用性の向上やバス停の充実、乗継環境の向上等）とともに、自家用車に頼らずに必要な生活サービスを利用できる快適な生活環境の実現が必要。
- ・特に東部地域を中心に、高齢化する住民のニーズも踏まえて、移動の自由や社会参加の促進、地域の活性化等に繋がる利用しやすい交通手段が必要。

課題 3 自然災害に対する暮らしの安全・安心の向上

- ・市街地の脆弱性を低減・解消し、自然災害に備えた安全・安心な住環境の確保のためには、防災・減災対策とまちづくりの連携が必要。
- ・自助・共助による避難支援の充実や災害リスクが高い地域への新規居住の抑制など、災害が発生する前からの事前準備を推進することが必要。

課題 4 「筆の都」の活力・魅力の向上

- ・本町の伝統産業である「筆」を活かし、筆に係る文化・歴史・経済などを中心市街地のまちづくり等に生かすことで、安定的な税収の確保を図るなど、町の資源を最大限に生かしながら、都市経営を持続可能にしていけることが必要。

町民アンケート

- 現在、不便・不安に感じていること
  - ・公共交通（路線バス）が不便【課題 2】
  - ・近隣に病院がない【課題 1、2】
- 将来の暮らしについての不安
  - ・身近な医療機関（診療所など）の撤退【課題 1、2】
  - ・廃業や路線バスの減便・撤退【課題 1、2、4】
- 将来的な居住意向
  - ・10代～20代の半数以上が町外に居住したいと回答。【課題 1】
  - ・子育て世代の中心である 30代や老後の暮らしに不安を抱える定年前の 50代なども町外への居住意向の割合が高い。【課題 1、2】

地区別意見聴取会

- 西部地区
  - ・筆の里工房周辺へのアクセス性の向上【課題 4】
  - ・大規模商業施設や子どもが行ける飲食店が近くにない【課題 1、2】 等
- 中央地区
  - ・狭隘道路が多く、狭くて危険。道路が狭い所では、空き家等が発生【課題 2】
  - ・土砂災害等のリスク、避難所の安全性の問題【課題 3】 等
- 東部地区
  - ・診療所等が身近な場所にない【課題 1、2】
  - ・バス停までの距離が遠い集落がある【課題 2】 等

都市づくりの方針

筆にのせて 未来を描く まちづくり  
～なんかいいい ちょうどいい そう想えるまちの実現～

都市環境と自然環境が共存した熊野暮らし  
～コンパクトでつながりのあるまちの実現～

立地の適正化に関する基本的な方針

【基本方針 1】交通拠点施設と誘導施設の整備等による都市機能の集約・誘導

① 既存の都市機能の維持・強化

都市拠点  
■まちの「心臓」の機能強化

- 都市拠点において交通拠点施設を中心とする複合施設等の整備を進め、拠点機能の強化を図る。
- 都市拠点から生活連携軸に沿って、診療所・子育て支援施設・商業等の生活利便施設を中心とした都市機能を誘導する。

② 町の魅力を高める新たな都市環境の形成

都市空間  
■まちを彩る「ドレス」をつくる

- 町民ニーズへの対応、地域課題の解決に資する新たな都市機能の創出を図る。
- 観光・交流機能の強化と住民生活の質の向上に繋がる都市機能の集積強化を図る。

【基本方針 2】安全で生活利便性の高い区域への居住の誘導

① 市街地住環境や交通利便性の向上による居住の誘導

居住地（市街地）  
■まちの「身体」の体質改善

- 市街地の人口密度が維持できる範囲内に居住を誘導すべきエリアを設定する。
- 町外からの新たな世帯の居住の誘致や町内世帯の住み替えの誘導等を図る。

② 災害リスクの高い区域からの居住の誘導

防災・減災  
■まちを守る「ヨロイ」の強化

- 災害の発生のおそれが高い災害ハザードエリアから安全で生活利便性の高い区域へ居住を誘導する。

③ 市街地周辺の田園住宅地への新たな居住の誘導

居住地（市街地）  
■まちの「身体」の体質改善

- 東部地域などの田園集落地では、営農環境の保護・育成に配慮して、空き家の活用等により農業を新たに営む者等の居住を誘導する。

【基本方針 3】地域交通ネットワークの強化・刷新・再構築

① 地域交通のり・デザイン（利便性と持続可能性の向上）

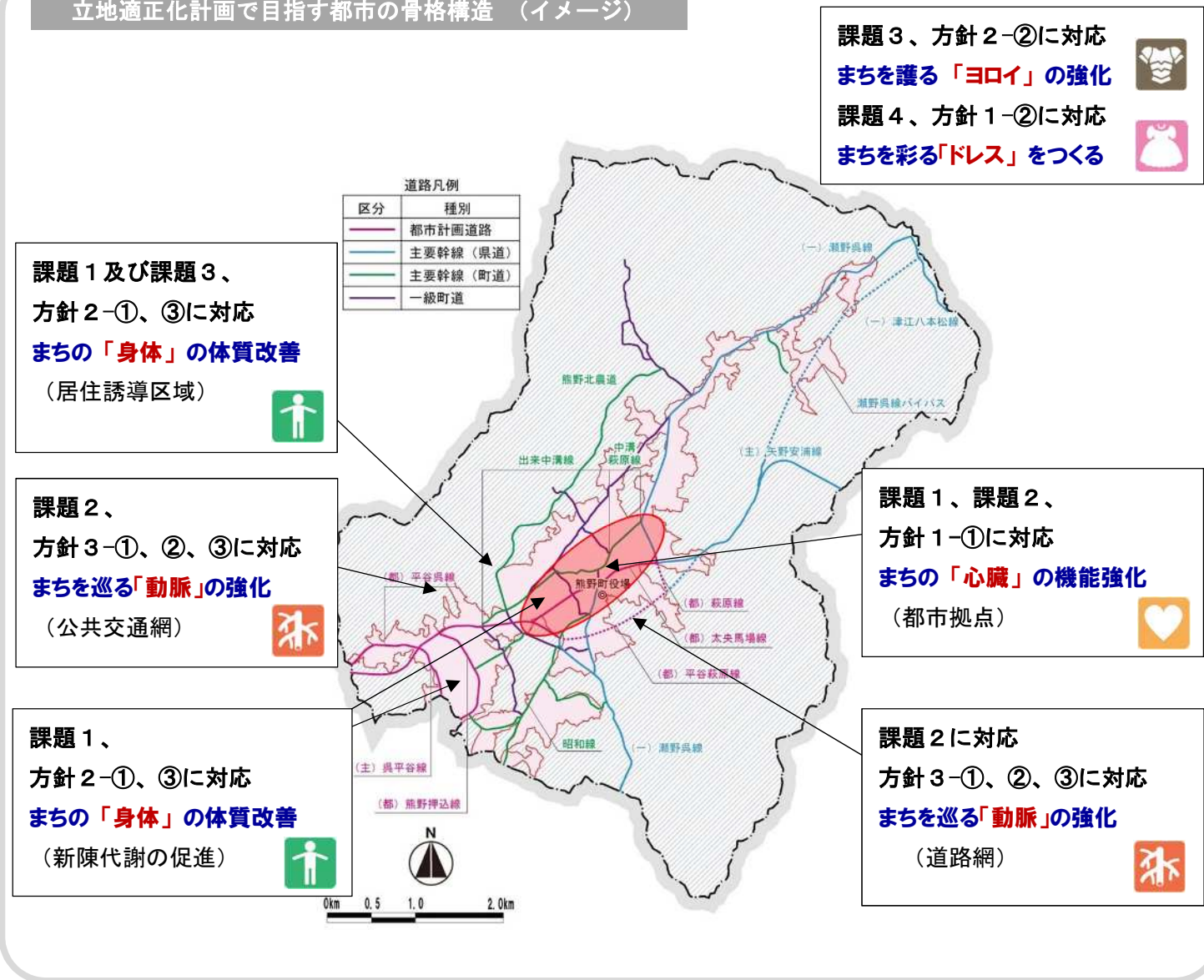
② 多様な交通環境の整備

③ 広域連携軸の整備

交通ネットワーク  
■まちを巡る「動脈」の強化

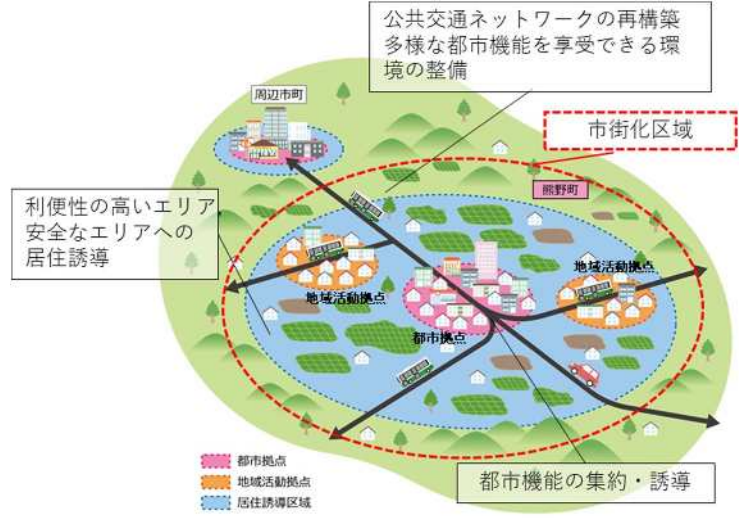
- 快適で利用しやすい移動環境を構築するとともに、都市拠点や地域活動拠点、周辺市町の拠点等へのアクセスを確保するなど、地域交通ネットワークの強化・刷新・再構築を図る。

立地適正化計画で目指す都市の骨格構造 (イメージ)



まちづくりの方針 (将来像)

都市環境と自然環境が共存した熊野暮らし  
～コンパクトでつながりのあるまちの実現～



これらの将来像の実現のためには、  
周辺市町と連携し、**圏域全体で「コンパクト・プラス・ネットワーク型」の都市再構築**を図り、**将来的にも持続的で広域的な「圏域」**を形成する。

● **美しい自然環境の中で子育てがしやすく、文化や芸術が香る良好な居住環境が形成されたまち**

- ・年を重ねても住み続けたいと思え、住み続けられる。
- ・熊野町に戻ってきたい、住みたいと思える。
- ・自然豊かで文化・芸術に満ちた環境が整備されている。



● **町内外への自由な移動が可能で、必要な生活サービスの利用や社会参加ができる暮らしやすいまち**

- ・自家用車に頼らずに通勤・通学、通院、商業施設等の利用ができる。



● **自然災害をはじめ、有事の際の対応ができる安全で安心なまち**

- ・防災・減災のための取り組みが推進されている。
- ・避難体制の構築、避難支援の充実等が推進されている。



● **強みを活かして稼ぐことができ、将来に渡って持続可能なまち**

- ・広島圏域の強みを活かし、安定的な税収が確保できる。
- ・将来想定を踏まえ、持続的な都市経営を推進する。



まちづくりの方針 (ターゲット)

都市づくりの方針、立地適正化に関する基本方針により目指す都市骨格構造・将来のまちの姿を示すとともに、本計画において何を実現しようとしているかを示すために、特に重要となるターゲットを示す。

ターゲット①、②

- 若者、子育て世帯が住み続けたいと思うまち
  - ・熊野町で生まれ育った方が戻ってくる。
  - ・熊野町の魅力を感じ住みたいと思える。

ターゲット③

- 老後の楽しみを創出でき、高齢になっても住みたいと思えるまち
  - ・年を重ねても健康で住み続けられる。
  - ・自然豊かで文化・芸術に満ちた環境が整備されている。

